

「フクシマD桃太郎」の産肉能力

福島県農業総合センター 畜産研究所

1 部門名

畜産・豚・育種・選抜

2 担当者

宮本拓平・西牧由佳・中村フチ子・松井

3 要旨

平成20年度から県内生産者に対し供給を開始しているデュロック種「フクシマD桃太郎」は今後、開放型育種により生産者に高能力な種豚を長期的に供給していく計画としている。そこで、さらなる高能力化に有用な外部導入豚を検討するため、「フクシマD桃太郎」の持っている能力をより正確に把握し、またその時の種畜評価の精度向上に資することを目的として産肉能力検定を実施した。また、「フクシマL2」との組合せ能力の調査も実施した。

- (1) 平成21年2~5月生まれの育成豚(雄)31頭の1日平均増体重(DG)、背脂肪の厚さ(BF)、ロースの断面積(EM)を測定した(表1)。
- (2) 各形質の育種価を推定した結果(図1、2、3)、造成最終世代の育成豚(雄)と比較してDGは14.5g増加、BFは0.03cm増加、EMは0.4cm²増加した。
- (3) 「フクシマL2」と組み合わせた三元交雑豚の肥育成績を調査した結果、去勢雌平均でDGは1,033.6g、飼料要求率は2.83、出荷日齢は144.3日で枝肉重量は70.8kg、上物率は70%となった(表2)。

表1 「フクシマD桃太郎」育成豚検定成績(雄)の年次変化

	n	D G (g/日)	B F (cm)	E M (cm ²)
H17(G1)	35	932.8 ± 104.5	1.65 ± 0.33	31.6 ± 2.63
H18(G2)	37	939.4 ± 102.1	1.72 ± 0.33	34.8 ± 3.34
H19(G3)	40	961.9 ± 74.3	1.66 ± 0.26	36.6 ± 3.27
H21	31	956.6 ± 105.5	1.59 ± 0.25	35.5 ± 2.78

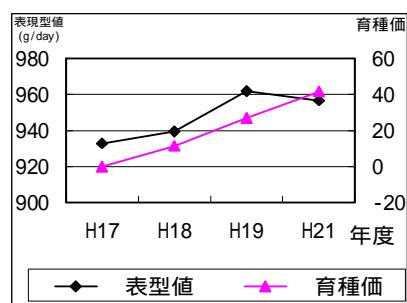


図1 DGの年次変化

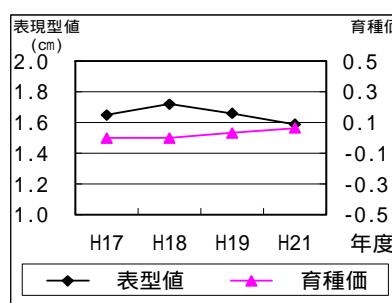


図2 BFの年次変化

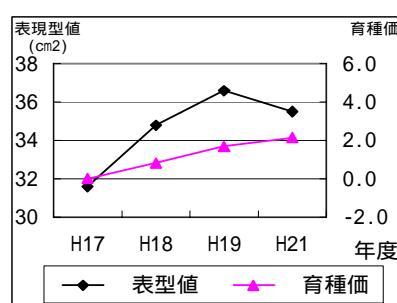


図3 EMの年次変化

表2 「フクシマD桃太郎」と「フクシマL2」を使用した三元交雑豚(LWD)の産肉成績

性別	年度	飼養形態	個体数	D G (g/日)	飼料要求率	出荷日齢	出荷体重(kg)	枝肉重量(kg)	生体歩留	背腰長(cm)	背脂肪の厚さ(平均)(cm)	格付
去勢	H21	群飼養	5	1102.9	2.74	138.2	109.4	68.9	0.629	67.9	3.15	上3、中1、並1
雌	H21	群飼養	5	964.2	2.91	150.4	113.6	72.6	0.639	69.6	3.13	上4、中1

4 主な参考文献・資料

- (1) 平成19年度試験成績概要(2008)